

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成18年10月12日(2006.10.12)

【公開番号】特開2000-239059(P2000-239059A)

【公開日】平成12年9月5日(2000.9.5)

【出願番号】特願平11-247327

【国際特許分類】

C 04 B	35/195	(2006.01)
B 01 J	20/16	(2006.01)
B 01 J	35/04	(2006.01)

【F I】

C 04 B	35/16	A
B 01 J	20/16	
B 01 J	35/04	3 0 1 P

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月28日(2006.8.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】 コージェライト体の作成方法において、前記方法が：

a) タルク、 Al_2O_3 生成源、並びに1種以上のカオリין、か焼カオリİN、およびシリカ成分を含み、必要に応じてスピネルを添加した、コージェライト形成原材料を選択し；ここで前記タルクの平均粒径は約3.0 μm以下であり、前記 Al_2O_3 生成源の平均粒径は約2.0 μm以下であって、存在すれば、前記カオリİNの量は、前記カオリİNの平均粒径が約2.0 μm未満の場合に、前記原材料の約35重量%未満であり；

b) 前記原材料を有効量のビヒクリルおよび成型補助剤と均質にブレンドして、前記原材料に可塑的成型適性および生強度を付与して前記原材料の可塑性混合物を形成し；

c) 前記原材料を成型して未焼結体とし；

d) 前記未焼結体を乾燥し；

e) 前記未焼結体を約1370ないし1435の温度で焼成する；

各工程を含み；

前記タルクの平均粒径が約2.0 μm未満であり、前記 Al_2O_3 生成源の量が前記原材料の約20重量%未満であって、平均粒径が約0.3 μm未満の分散性大表面積 Al_2O_3 生成源が、存在すれば、前記原材料の約5.0重量%未満を構成し、前記カオリİNの平均粒径が約2.0 μm未満の場合には、1150から1275の間の昇温速度が約200/時より大きく；

前記タルクの平均粒径が約2.0 μm以上であり、前記 Al_2O_3 生成源の量が前記原材料の約20重量%未満であって、平均粒径が約0.3 μm未満の分散性大表面積 Al_2O_3 生成源が、存在すれば、前記原材料の約5.0重量%未満を構成し、前記カオリİNの平均粒径が約2.0 μm未満の場合には、1150から1275の間の昇温速度が約50/時より大きく、かつ約600/時より小さく；

前記 Al_2O_3 生成源の量が前記原材料の約20重量%未満であり、平均粒径が約0.3 μm未満の分散性 Al_2O_3 生成源が前記原材料の約5.0重量%以上を構成し、前記カオリİNの平均粒径が約2.0 μm未満の場合には、1150から1275の間の前記昇温速度が約50/時より大きく；

前記カオリİNの平均粒径が約2.0 μmより大きい場合には、1150から1275

の間の昇温速度が約 600 / 時より小さく、かつ約 30 / 時より大きく；
実質的に約 49 重量%ないし 53 重量%の SiO_2 ，33 重量%ないし 38 重量%の Al_2O_3 ，および 12 重量%ないし 16 重量%の MgO からなる組成を有し；25 ~ 80 における平均熱膨張係数が $4 \times 10^{-7}^{-1}$ 以下であり、約 0.5 μm から 5.0 μm の間の直径を有する細孔の数が全細孔数の約 85 % 以上であるか、あるいは 25 ~ 80 における平均熱膨張係数が $4 \times 10^{-7}^{-1}$ より大きいが $6 \times 10^{-7}^{-1}$ 以下であり、多孔率が約 30 体積% 以上であって、約 0.5 μm から 5.0 μm の間の直径を有する細孔の数が全細孔数の約 85 % 以上であるかのいずれかの特性を有するコージェライト体を作成する；
ことを特徴とする方法。